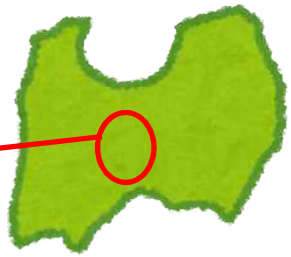
産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（R1年度：計画作成主体：富山市農業再生協議会）（富山県）

取組の概要

対象品目　　：水稲（産地面積2,018ha）
主な取組主体：あおば農業協同組合
成果目標　　：輸出向けの年間出荷量10t以上
　　基準（H30年度）　　0t
　　目標（R3年度）　　30t
導入施設等　：整備事業（色彩選別機、精選設備）

富山県
富山市
婦中、八尾、大沢野



ポイント

【産地の課題及び取組方向】
　今後も安定した米生産販売を推進し、生産者所得の向上に向けた取組を進めていくためには、輸出用米の取組拡大は必要不可欠である。また、主食用米に加え、輸出用米のブランド力を高めその取組を計画的拡大し、安定的に進めていくためには、現在の老朽化したカントリー施設設備では限界がある。そのため、色彩選別機や精選機を導入し、品質や処理能力を向上・安定させることで、取組を実現させていく。

【産地の体質強化に向けた方策】
①輸出用米の出荷量を拡大するための施設設備の導入支援
②管内農家への輸出用米への取組拡大を推進

産地体制

地域の関係者（県、富山市、あおば農業協同組合、農業関係者等）が一体となり、事業を推進

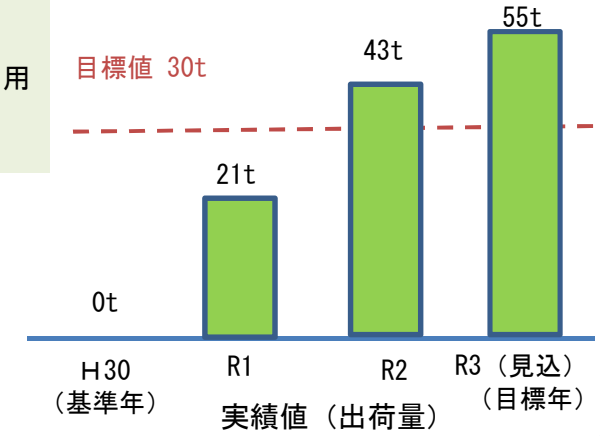
地域における独自の取組

〈主な取組〉

成果目標となっている輸出向け出荷量の増加に加えて、直播面積や密苗面積を増加させるとともに、1等米比率の向上を目指して取り組んでいる。

取組成果

【事業実施による直接効果】
①施設設備導入支援による初期投資の節減効果
②色彩選別機の利用による品質向上効果

【事業実施による間接効果】
①担い手による作付面積が拡大し、輸出用米の出荷量が増加
②あおば米ブランド価値の維持・向上

輸出用米の出荷量が増加
（達成率143%）